（別添様式４）

令和５年度　学校評価実施報告書

学校名（　　嵯峨中　学校）

教育目標
嵯峨･嵐山･広沢地域の豊かな自然と文化の中で､社会人基礎力 の育成を目指す

年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し ・昨年度のように新型コロナウイルス感染拡大防止にあらゆることが制限された学校生活からは、行事等の実施や活動の制限が少しずつ緩和され、これまでの取組や事業の在り方を見直し、新たな形での取組の構築につなげることができた。 ・学校教育目標の具現化に向けて、教職員が懸命に教育活動に当たっている。が、昨年度に引き続き、教職員の自己評価アンケート結果では、「失敗することを恐れず、高い目標を設定して挑戦させていくよう指導している」でほぼ肯定的な回答結果を得られた。しかし「よく当てはまる」と回答した教職員が７月結果と比べて 12 月結果ではやや減少傾向であり、課題となる点を修正していきたい。 ・本校の教育活動の中心となっている「嵯峨中パレード」は、方法を模索しながらコロナ禍以前の形でようやく実施することができた。自己評価アンケート結果（後期）でも、「地域と共にある学校づくりを意識して、特色ある教育活動を行っている」で、９１．４％が肯定的な回答であった。「よく当てはまる」と回答した教職員も、７月の結果と比べて、１０％ほど改善し、５４．３％という結果であった。天候不良のため２年生で実施している「嵐山フィールドワーク」は国有林に入山することができなかったが、地域の方と大学の先生をお招きして嵐山の歴史や景観の保護活動等について学ぶことができた。地域との協働を感じることのできる行事等を通して教職員にとっても地域の力を感じ取る機会となり、生徒にとっても「自己有用感」を実感することができたと実感している。地域への愛情を育む取組として今後も継続していきたい。 ・今年度も教職員自己評価では、「いじめ防止基本方針を理解し、組織的対応に努めている」とほとんどの教職員が回答しているが、いじめに関連する案件（いじめにつながる案件も含めて）は起こっており、子どもに寄り添った指導や支援が必要である。特に、生徒の細かな変化や声なき声に教職員がいかに早く気づき、迅速な初期対応に結び付けるかが重要であり、常に教職員での確認を行っていきたい。 ・「エスノート（振り返り手帳）を効果的に活用させるように指導している」と「家庭学習で、自学自習の力を身に付けさせるよう指導している」の質問に対しても、これまでと同様に課題が見られる。エスノートを使用する目的と効果についての研修や家庭学習課題の交流などを行い、生徒や保護者から効果やメリットが見いだせるような指導につなげていく必要がある。 ・学力向上に関しては、確認プログラム等で概ね良好な結果を示しているが、各々の授業改善に力を入れて、学校全体で取り組んでいくことがまずはやるべきことであると考えている。
学校関	学校関係者による意見・支援策 ・学校に対して、様々な面でできるサポートをしていきたいとのご意見をいただいた。 ・学校にはたくさんの生徒がいるので、先生方も忙しい中、一人一人を丁寧に見ていくことはと

係者評価	ても難しいことであるが、多くの生徒に丁寧に関わっていってほしいという要望をいただいた。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和５年９月６日	学校運営協議会
最終評価	令和６年２月１６日	学校運営協議会

（１）「確かな学力」の育成に向けて　『学力向上プラン』

重点目標

・家庭学習の習慣化と日々の授業との連動（振り返りの重視とエスノートの活用）
・グループ活動を通じて「主体的・対話的な深い学び」が得られる授業の実践
・ ICT 機器の効果的な活用を通じた「情報活用能力」の育成
・授業に ICT を組み合わせ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる。

具体的な取組

１．週１回の教科会を授業時間内に組み込み、教科会の充実を図り、「主体的・対話的な深い学び」を意識した授業改善の交流を行う。
２．ＧＩＧＡスクール構想の下、学習の基盤となる資質・能力の一つである「情報活用能力」を育てるために、ＩＣＴ機器を活用した学習場面を意図的に設定していく。
３．「振り返り力」向上を重視し、エスノート（フォーサイト手帳）の活用を、年間を通じて行う。
４．学年会・教科会で学力向上に向けた議論ができるように、各教科および学習研究部で全国学力学習状況調査などの諸調査や定期テストなどのデータを分析し、課題やその改善方法等を検討するための機会を研修会及び教科会や学年会などで定期的に設ける。
５．各教科・領域において、新学習指導要領に沿った指導ができるように教材・教具の充実を図る。
６．A4 版ホワイトボードによる思考の見える化を全教科で進める。
７．校内研究授業を年２回実施し、授業交流を通して指導力向上を目指し、授業改善を図っていく。
８．生活のリズムを整え、落ち着いて１日のスタートを切るために、一年を通して読書に取り組ませる。
９．授業に生かされる家庭学習の充実を図るため、“適切な質と量の宿題”の継続的な取り組みを行う。
10. 定期テスト前や長期休業期間を活用して、補充学習会を実施する。
11. 週末の課題提示により、個々の生徒の興味・関心に合わせた多様な取り組みを展開していく。
12. 通常の学級に在籍する特別な支援を要する生徒について、「個別の指導計画」「個の課題に応じた指導計画」を作成し、自律して社会参加できるための支援について保護者と共に計画し、個に応じた支援を意識し、実施していく。
13. 特別支援教育の共通理解を深め、指導に役立てるための研修会や事例研修を行う。
14. ユニバーサルデザインの観点から、学校全体の環境整備を進める。
15. メンターチームを活用し、若手教員の育成・支援や指導力の向上に力を入れ、互いに切磋琢磨できるような OJT を充実させる。

（取組結果を検証する）各種指標

・全国学力学習状況調査（3年生）の結果

・学習確認プログラム（全学年）の結果

・教職員自己評価（言語活動の充実、授業形態の工夫、特別支援教育への知識と実践）

・生徒自己評価（聞くことの姿勢、発表・書くことへの意欲・関心、家庭学習の習慣、エスノート活用）

・保護者アンケート（授業の工夫、家庭学習の習慣）

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

〇学校評価アンケート（後期）12月実施

・教職員自己評価（「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計）

創意工夫のある授業を行い、学びに向かう姿勢を高められるよう指導している	**97.1%**
生徒たちの「聞く」姿勢を高められるよう、意識して指導している。	**100%**
生徒たちの考えを様々な方法で表現させる活動を行う等、アウトプットを意識して指導している。	**91.4%**
生徒たちに、エスノートを効果的に利用させるよう指導している。	**94.3%**

・生徒アンケート（「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計）

自ら進んで学習に取り組んでいる。	**75.1%**
友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞けている。（「聞く」姿勢）	**96.7%**
授業の内容は、よくわかる。	**89.3%**
家庭での学習に、自主的に取り組めている。	**64.0%**
エスノートを利用して、計画的に過ごしている。	**41.8%**

・保護者アンケート（そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計）

お子さんは、自ら進んで学習に取り組めていると思われますか。	**68.0%**
お子さんは、人の話をしっかりと聞くことが出来ていると思われますか。（「聞く」姿勢）	**84.8%**
学校では、わかりやすい授業が行われていると思われますか。	**83.9%**
お子さんは、家庭での自主学習に取り組めていると思われますか。	**58.9%**
お子さんは、エスノートを利用して、毎日の生活を過ごせていると思われますか。	**40.8%**

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

〇学習確認プログラム・ジョイントプログラム

予習・復習シートの活用（自主学習・提出）を行うことで、学力向上を図り授業にもつなげている。すべての学年、すべての教科で全市平均を上回る成果をあげている。１年生については、特に数学、理科で成果を上げている。２年生もＰｒｅＳｔａｇｅ２・３の社会で大きく成果を挙げることができた。３年生は国語、社会、理科で成果が見られた。アウトプットを意識した授業の工夫について検討し、主体的・対話的で深い学びを意識した授業へとつなげていきたい。

〇授業

学校評価アンケート結果から、授業での内容はわかる（わかりやすい授業）の項目では、生徒と保護者ともに約８割～９割という結果であった。概ね良好であるものの、自学自習や自ら進んで学習するなどの項目についてはこれまで同様に課題が見られ、大きな改善は見られなかった。振り返りを重視した、授業と家庭学習との連動という点においては、より具体的な改善策が必要である。タブレット端末を用いた授業などを積極的に進めている中であるが、学びの質という点をもう一度見直していきたい。

	○特別支援教育 　継続して研修会やケース会議を行い、「個別の指導計画」の作成と保護者への周知も行っている。ＬＤ等通級教室の要望も増加しており、本校での入級生徒をケース会議、学年会、保護者面談等で慎重に判断して、個に応じた手立てや取組の指導を行っている。 ○家庭学習 　学校評価アンケート結果から、「家庭での学習に自主的に取り組んでいる」の項目では、生徒は約６割強、保護者は約６割という結果であった。タブレット端末の積極的な使用により、家庭学習の提示方法や提出方法も多様になってきているが、授業と連動した家庭学習になるように工夫がさらに必要である。 ○エスノート（振り返り手帳）の利用 　エスノートを導入してから長い時間が経過し、時間を気にしたり、計画を立てること意識したりすることについては、一定の向上が見られる。しかし、活用については、教職員自己評価では 9 割強が効果的な指導をしていると回答しているにもかかわらず、肯定的な回答をしたのは生徒･保護者ともに約４割という結果であった。学校教育目標として社会人基礎力を掲げ、課題を発見する力や計画する力の育成を目指しているが、各々の力が目指すところについて丁寧に説明し、エスノートの活用にどのようにつながっているのかについて確認していく必要性を感じている。 ○ユニバーサルデザインの観点からの環境整備 　これまで時間をかけて京都嵯峨学園（小中連携）の取組の一環として、教室内のホワイトボード、時計、掲示物、黒板、カーテン、廊下の壁、ごみ箱やリサイクルボックスの色など統一した規格に設定を行ってきた。特に特別支援教育と中１ギャップ解消という点においては一定の効果があり、今後も継続して取り組んでいきたいと考えている。
	分析を踏まえた取組の改善 ○学習確認プログラム等の結果 　全学年全教科で全市平均を上回る結果であった。日常の授業を大切にしながら、予習・復習シートを有効に活用し、学力の定着と向上につなげていきたい。特に、教科会等での時間を有効に活用して課題点について交流し、授業や指導の改善を図っていきたい。中位層から下位層の生徒たちへの手立てを中心に全体の底上げを図っていきたいと考えている。 ○学習活動 　これまで話し合い活動やグループワークの多くが制限されてきたが、本校が学習活動に活用しているホワイトボードや全員配布のエスボード、タブレット端末を使用した新しい授業形態の工夫をしながら取り組むことができた。学校総体として授業改善に取り組み「主体的・対話的で深い学び」につながるような学びの質の向上を図っていきたい。 ○特別支援教育への理解と実践 　ケース会議や研修会の時間を有効に活用し、支援の必要な生徒の理解と教職員側のスキルの向上に努めていく。 ○エスノート（振り返り手帳） 　エスノートの活用と社会人基礎力として目指している力がどのように関係しつながっているかについて、必要性を感じられるような指導をしていく。さらに取組の意義に関して教職員の理解を深める。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・進路の獲得に向けて丁寧な関わりとと更なる学力向上に向けて期待をしている。 ・エスノート（振り返り手帳）と家庭学習の評価が全体的に低いので、取組の主旨・目的を確認し、改善が必要である。

（２）「豊かな心」の育成に向けて

重点目標 「一生懸命はカッコいい！」・「120％の嵯峨中魂！」５つの心（素直・反省・奉仕・謙虚・感謝）を磨く自律・創造・共生 〇主体的に考え行動し、やり遂げる強い意志を持つ生徒の育成 〇人権を尊重し、思いやりの心に富む生徒の育成 〇正義や公正を重んじる心、および、規範意識を持つ生徒の育成 〇よりよい社会の実現を目指す生徒の育成 〇地域を愛し、地域の環境や地域の伝統を大切にする心を持ち、地域に貢献できる生徒の育成 〇よりよい社会の実現を目指す生徒の育成 〇道徳的価値を理解することを通して内省し、多角的に考え、判断する能力の育成 〇考え、議論する道徳授業の実施
具体的な取組 ・道徳の時間をはじめ、あらゆる教育活動の場面において道徳教育を進めるという意識を高める。 ・生徒の実態に応じた授業のめあてを設定し、教科書を基盤とした適切な年間指導計画を作成し、22項目を網羅する。 ・エスや特別活動（伝統文化体験を含む）、他教科の授業とのカリキュラム・マネジメントを図り、指導内容および時期を計画・実施する。 ・主体的・対話的で深い学びを実現するために、授業の形態・発問の工夫・教材の提示方法を工夫する。 ・授業中の発言・ワークシートから生徒の人間的な成長のふり返りや道徳性の育みを見とり、評価する。 ・研究授業を行い、小学校での道徳の学習を発展的に中学校で活用できるよう検討する。 ・公開授業等の機会を有効に活用し、保護者に周知する機会を設ける。
（取組結果を検証する）各種指標 ・Q−U調査及びクラスマネジメントシート ・道徳の生徒自己評価（学期ごと） ・教職員自己評価（保護者対応、生徒とのつながり、地域とのつながり） ・生徒自己評価（公共の精神、地域行事への参加、規範意識、自己有用感） ・保護者アンケート（生徒の規範意識）

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果	
自己	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 〇Ｑ－Ｕ調査及びクラスマネジメントシート

評価

全てのクラスで、おおむねの生徒が「学校に通うのは楽しい」と回答している。

（学級ごとの課題や個別事象について、学年会や生徒指導委員会等で共有し、取組を進めている。）

〇学校評価アンケート（後期）１２月実施

・教職員自己評価（「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計）

生徒たちに、学校や社会のルールを守らせるよう指導している。	100%
失敗することを恐れず、高い目標を設定して挑戦させるよう指導している。	100%
生徒たちの間違った言動や行動に対して、その場で指摘し、きちんと指導している。	100%
「一生懸命はカッコいい」と目指す生徒の育成に向けて教育実践をしている。	94.3%
地域と共にある学校づくりを意識して、特色ある教育活動を行っている。	91.4%
ＨＰや学年・学級通信などで、積極的に情報の発信や提供をしている。	88.5%
生徒たちに、将来の夢や希望を持てるような指導（キャリア教育）をしている。	97.2%

・生徒アンケート（「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計）

学校や社会のルールを守れている。	98.4%
困難なことでも、失敗を恐れず挑戦している。	76.9%
みんなで協力してやり遂げたとき、うれしいと感じることがある。	93.7%
日々の生活の中で、「一生懸命はカッコいい」を実践している。	80.8%
地域や社会をよくするために、どうすべきかを考えたり、行動しようとしている。	73.2%
将来の夢や希望を持っている。	72.1%

・保護者アンケート（そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計）

お子さんは、学校や社会のルールを守って行動していると思われますか。	95.2%
お子さんは、何事も失敗を恐れず、挑戦しようとしていると思われますか。	65.0%
お子さんは、周りの人と協力して、課題を解決しようとしていると思われますか。	84.8%
お子さんは、日々の生活に対して、一生懸命に取り組めていると思われますか。	85.5%
ＨＰや学年・学級通信など、情報の発信や提供ができていると思われますか。	79.6%
お子さんは、自分の夢や目標を持てるような活動ができていると思われますか。	68.9%

分析を踏まえた取組の改善

〇学校生活について

教職員自己評価では、概ね９割程度の評価となっているが、生徒アンケートでは、「困難なことでも失敗を恐れず挑戦している」が 76.9%、「日々の生活の中で一生懸命はカッコいいを実践している」80.8%「将来の夢や希望を持って活動している」72.1%という結果であった。全体的には肯定的な結果であると捉えることはできるものの、学校行事等の取組がコロナ禍で実施できなかったこともあり、学校生活の中で挑戦し、一つのことをやり切ったという思いを実感できていない生徒も存在する。本来であればもっと多くの活躍の場があったにもかかわらず、その機会を失ってしまっている現状もある。学校生活の中の小さな成功体験の積み重ねを大切にし、自己肯定感の高まりにつなげていきたい。

〇地域とのつながりについて

「地域と共にある学校」を目指し、地域行事にも積極的に関割ってきたことで、地域行事等に

	対する意識は高いと感じている。その反面、生徒アンケート結果では、「地域や社会を良くするために、どうすべきかを考えたり、行動しようとしている」という質問に対して73.2%という回答であり、地域行事に参加はしているものの自分自身が地域のために行動したり、地域のために何かをしようとするという視点については課題が残る。地域との連携した取り組みや地域行事も以前に比べると減少傾向にあり、つながりを実感する機会が少なくなってきている現状があることも事実である。 〇豊かな心の育成について 　これまでと同様に、自己有用感・自尊感情を高める教育活動の実践や楽しく安心して過ごせるための学級経営に取りくみ、間違った言動や行動・態度を見過ごさない生徒指導を継続して行っていく。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 　嵯峨中パレードが実施できたことを大変喜んでいただいている。地域連携や地域の伝統を継承して、地域を大切にできる生徒や地域で活躍する中学生たちの姿を見たいとの話をいただいた。

（３）「健やかな体」の育成に向けて

重点目標 〇生徒の健康と生活実態を把握し、健康な生活が送れる習慣を育てる。 〇生徒一人一人が自らの心身の健康や安全について理解し、生涯を通して健康や安全の保持・増進しようとする態度や意欲を培う。
具体的な取組 ・学校教育目標である「社会人基礎力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）」の育成を目標に、教科、道徳、総合の時間、学校行事において、また地域とのこころのつながりも大切にし、豊かな心と健やかな体の育成に努める。 ・生活習慣の乱れ、ストレスや不安感の高まっている現状を踏まえ、こころの健康を含め自らの健康を維持し改善することが出来るように、日々の観察と教育相談等の機会を使って指導、助言する。 ・性に関する学活を行う。（生命誕生や男女交際、性感染症に関する知識を深めさせる。） ・防煙教室、薬物乱用防止教育を行う。（その有害性・危険性について認識を深めさせ、好奇心や人からの勧め等に関して、適切に対応できる態度を養わせる。） ・保健委員会活動の「換気点検」「生活習慣見直し習慣」「ランチョンマット点検」の実施や朝学活での「健康観察（タブレット導入）」で生徒の健康把握に努める。 ・生徒及び保護者が、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるように、積極的に食教育に取り組む。
（取組結果を検証する）各種指標 ・生徒自己評価（基本的生活習慣、あいさつ、思いやり、食事・休養） ・給食の喫食調査および生活習慣についてのアンケート（生活保健委員会）

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果 ・教職員自己評価（あいさつ、思いやり、食事・休養） ・生徒アンケート（あいさつ、思いやり、食事・休養）

・保護者アンケート（あいさつ、思いやり、食事・休養）
・生活習慣についてのアンケート（生活保健委員会）後期（１１～１２月）実施
・給食の申込数調査

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

〇学校評価アンケート（後期）１２月実施

・教職員自己評価（「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計）

生徒たちに、場に応じたあいさつの習慣を身につけさせるよう指導している。	100%
生徒たちが、互いに認め合い、励まし合い、支え合うことができるよう指導している。	100%
食事や休養など、自分の身体のことに気を付けて生活ができるよう指導している。	97.1%

・生徒アンケート（「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計）

自分から気持ちの良いあいさつをしている。	86.7%
周りの人を思いやるような言動や行動をしている。	93.5%
食事や休養など、自分の身体のことに気を付けて毎日の生活を送っている。	87.2%

・保護者アンケート（そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計）

お子さんは、気持ちの良いあいさつや返事ができていると思われますか。	81.2%
お子さんは、周りの人を大切にし、仲良く過ごせていると思われますか。	94.9%
お子さんは、食事や休養など、自分の身体のことに気を付けていると思われますか。	77.7%

〇生活習慣のアンケート（生活保健委員会）後期（10 月）実施

・何時頃に就寝しましたか。（無回答０％）

午後１０時までに就寝。	7.1%
午後１０時から午後１１時の間に就寝。	25.8%
午後１１時から午前０時の間に就寝。	26.7%
午前０時から午前１時の間に就寝。	25.8%
午前１時以降に就寝。	14.8%

・何時頃に起床しましたか。（無回答０％）

午前７時までには起床。	54.2%
午前７時から午前７時３０分の間に起床。	32.6%
午前７時３０分から午前８時の間に起床。	10.1%
午前８時以降に起床。	3.1%

・朝食は、食べましたか。（無回答０％）

食べた。	55.2%
少し食べた。	35.4%
食べていない。	9.4%

〇給食の申込数調査

約３割～４割の生徒が、給食を申し込んでいる。

保健委員会が行っている生活習慣（特に起床時間、就寝時間）のアンケートから、夜遅くまで起きている生徒の割合が、多くなっている。４０％ほどの生徒が日をまたぐ時間まで起きていて

	（午前１時以降に就寝が 14.8%）、その中には、朝が起きられない生徒や不調を訴える生徒もいるため、家庭とも連携して継続して改善を求めていきたい。 　朝食の調査では、約９割の生徒が毎日食べていると回答し、朝食を食べていないと回答する生徒も 9.4%という結果であった。食べたという回答の中にも、少し食べたという回答が 35.4%おり、しっかりとした食事が学校生活での学習や体調にも影響を与えるということを、食育という視点からも学ばせていきたいと考える。 　本校の給食申込率は４割かったが、少し減少傾向にある。中学生が摂取すべきエネルギーや必要な栄養素をしっかりと摂ることが出来ている生徒が多い。 　アンケートの結果からも分かるように、あいさつの励行や他者を思いやる言動・行動ができる生徒も多く、心を育てることを大切にしながら、安心安全に通える学校づくりに活かしていきたい。
	分析を踏まえた取組の改善 　新型コロナウイルス感染防止やマスク着用の徹底を行う中で、これまではしっかりとあいさつをするように指導することが難しい面もあったが、少しずつ挨拶の声も大きくなり、登下校などの挨拶の意識は少しずつ高くなってきている。さらに、あいさつの取組をもう一度見直し、これまで大切にしてきた「あいさつ」の意識向上に努めたい。 　委員会が中心になって行っている生活習慣の改善に向けた取組（早寝・早起き・朝ごはんの実践）を継続していきたい。今年度は保護者向けに食育に係る講演会を行ったが、生徒に対しての食育に関わる指導も継続して取り組んでいきたい。 安心安全に過ごせる学校づくりに向けて、わずかな兆候やサインなどの見逃さないように、教職員の意識向上にも努めたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 　あいさつがしっかりできている嵯峨中生にお褒めの言葉をいただいている。安心・安全な学校生活が送れるように各家庭でも、協力していきたいとのご意見をいただいた。

（４）学校独自の取組

重点目標 京都嵯峨学園（3小１中）としての教育活動の充実を目指す。
具体的な取組 ①　新学習指導要領に対応した教育課程の編成と実施 ・ICT 機器を効果的に活用した授業改善と「情報活用能力」の育成 ・各教科における「つながり」を意識した授業の工夫・改善 ・家庭での自学自習の習慣化（振り返りの重視とエスノートの活用） ・困りのある生徒の実態に応じた合理的配慮の実施（教育環境整備の重視） ・「特別の教科　道徳」の実践　（重点内容項目…　B　礼儀、C　伝統と文化） ・アウトプットの重視（自身の考えを多様な方法で表現させる活動） ・諸調査結果を活かした授業の改善を図る。 ・妥当性、信頼性に基づいた学習評価を実施（評価ソフトの活用、説明責任）する。 ・課題解決に向けた補充学習を実施する。

②伝統文化教育の推進

・伝統文化教育推進委員会を設置して推進を図る。

・既存の取組の関連付けと整理をし、取組内容の充実を図る。

・指定事業を実施する。

③小中一貫（京都嵯峨学園）教育活動の充実

・小中一貫教育推進体制の強化を図る。

・9年間を見通したカリキュラム・マネジメント（小学校の学習内容の理解と関連の検討）

・地域を含めた小中連携による授業・行事等の取組（「京都嵯峨学園」としての取組）を推進する。

（取組結果を検証する）各種指標

・教職員自己評価（学習指導、生活指導、自身の意識改革、地域との連携、協働）

・生徒自己評価（自学自習、アウトプット、エスノート）

・保護者アンケート（京都嵯峨学園に対する理解）

・学校運営協議会および学園運営協議会の評価 他

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

・教職員自己評価（学習指導、生活指導、自身の意識改革、地域連携・協働）

・生徒アンケート（自学自習、アウトプット、地域貢献）

・保護者アンケート（自学自習、アウトプット、地域連携、京都嵯峨学園に対する理解）

・学校運営協議会の評価　他

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

〇学校評価アンケート（後期）１２月実施

・教職員自己評価（「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計）

「つながり」を意識した授業への工夫や授業改善を行っている。	100%
目標やめあてを提示するなど、わかりやすい授業となるような工夫や取組をしている。	100%
思考・判断・表現力等を高められるよう、意識して指導している。	100%
生徒たちの考えを様々の方法で表現させる活動を行うなど、アウトプットを意識して指導している。	91.4%
家庭学習で、自学自習の力を身に付けさせるよう指導している。	71.4%
地域と共にある学校づくりを意識して、特色ある教育活動を行っている。	91.4%

・生徒アンケート（「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計）

授業で、自分の考えが広がったり、深まっていると思うことがある。	77.8%
授業で、自分の考えを持ち、しっかり話したり書いたりしている。	83.0%
家庭での学習に、自主的に取り組めている。	64.0%
地域や社会を良くするために、どうすべきかを考えたり、行動しようとしている。	73.2%

・保護者アンケート（そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計）

お子さんの思考が広がったり、深まったりしていると思われますか。	72.9%
お子さんは、自分の思いや考えを表現することができていると思われますか。	70.6%
お子さんは、家庭での自主学習に取り組めていると思われますか。	58.9%
ご家庭で、お子さんと地域や社会のことについて、話をすることがありますか。	70.9%
京都嵯峨学園の名称を、保護者や地域に知っていただけていると思われますか。	82.2%
京都嵯峨学園の教育活動について、情報の発信や提供ができていると思われますか。	77.3%

京都嵯峨学園が、３小１中の連携した教育活動として取り組めていると思われますか。	**78.3%**	

〇京都嵯峨学園としての活動

嵯峨中パレードは感染防止対策を講じたうえで、コロナ禍以前と同様の形で実施することができた。

三小交流すもう大会は４年ぶりに開催することができ、中学生も大会の補助として関わることができた。嵐山フィールドワークは地域の方々の支援もいただき準備を進めたが、天候不良のため現地の山へ入ることはできず、講演を聞く形で実施することができた。

〇小中合同教科、分掌・係別会議

夏の合同研修および４校主任研修会も実施することができた。合同授業研修会も実施し工夫して行うことができた。

〇ホームページ

記録・広報係と連携して、学校行事や学年の取組を発信することができた。学校の様子を知っていただくためにも、計画的で積極的な発信を行っていきたい。

〇京都嵯峨学園の認知度

今年度は京都嵯峨学園だよりを７回発行することができたが、嵯峨学園としての取組を広く知っていただくためにも、保護者や地域に積極的に伝えていきたい。

分析を踏まえた取組の改善

１１月末に行った中学校体験授業・部活動見学は、感染症対策を講じて実施することができた。細かな進め方や見学時間等必要に応じて改善していきたい。

地域の方と大学の先生２名にご協力いただいている嵐山フィールドワークは、事前学習の甲斐もあってか、天候不良による現地での実施の不可を残念がる声が多く聞かれた。事前学習や事後学習の充実を図り、自分たちの住む地域を考えさせることにつなげていきたい。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 これまで新型コロナウイルス感染拡大に伴い、地域も学校もほとんどの行事を中止したり、縮小されてきたが、嵯峨中パレードをはじめとして、地域と学校が協力してより良いものにしていきましょうというご意見をいただいた。

（５）教職員の働き方改革について

重点目標 新しい時代の教育に向けた、持続可能な学校指導体制の構築と教職員の意識改革
具体的な取組 ①勤務時間を意識した働き方の推進 ・職員朝礼や職員会議で、日々の退勤時間を早くするように伝える。 ・庶務事務システムを利用した勤務時間の把握及びデータ分析を活用する。 ・職員健康日（原則、毎週火曜日・木曜日）については、午後6時30分までに退校する。 ・留守番電話の設定をする。（午後6時30分頃～午前8時頃） ・ストレスチェックを実施する。 ・超過勤務が多い教職員には、積極的に学校健康医による面談を実施する。 ・PTA、地域の方々、学生ボランティア等の活用を図る。

・スクールカウンセラー、総合育成支援員、学校司書、ALT等の連携を図る。
・学校閉鎖日についての理解と協力を得る。
②「学校働き方改革宣言」の周知徹底
・保護者への啓発を行い、理解と協力を得る。
・学校運営協議会で説明し、ご意見をいただくとともに理解を得る。
・学校行事の精選と見直しをする。
・業務の分散化する。
③部活動の適切な実施
・部活動ガイドラインの徹底を図る。
・朝練習の廃止（令和2年度より）
・外部コーチ、部活動支援員、合同部活動、保護者引率の活用を図る。
・週1回、ノー部活動日を実施する。（会議を集中させて行う日として設定）
④振替等の適切な運用
・代休、割変の確実な取得を図る。
⑤ハラスメントの防止
・教職員面談を実施する。
・風通しのよい職場づくりを推進する。
⑥育児、介護を伴う教職員への配慮
・部活動終了、完全下校時間を勤務時間内に設定し、超過勤務をしないで勤務できる条件を整える。
・特休等が取得しやすい職場環境をつくる。

（取組結果を検証する）各種指標
・出退勤管理システムでの毎月の時間外勤務時間の確認
・教職員自己評価（意識改革、地域との連携、協働）
・保護者アンケート（働き方改革に関する理解）
・学校運営協議会の評価 他

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果
・ 出退勤管理システムでの毎月の時間外勤務時間の確認
・ 教職員自己評価（意識改革、 地域との連携、 協働）
・ 保護者アンケート （働き方改革に関する理解）
・ 学校運営協議会の評価　他

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

〇毎月の時間外勤務時間が、４５時間以上および８０時間以上を超えた教職員数

	10月	11月	12月	1月	2月
80時間以上	**0名**	**0名**	**0名**	**0名**	**0名**
45時間以上	**19名**	**19名**	**12名**	**10名**	**13名**

〇教職員自己評価（「そう思う」・「ほぼそう思う」 を合わせて集計）後期（１２月）

ライフワークバランスを意識した働き方になるよう、働き方改革に努めている。	**80.0%**

〇保護者の意識、理解

留守番電話の設定や夏季休業中での学校閉鎖日（年休取得促進日）等などを行い、大きな苦情

	もなく理解を得られている。 ○「働き方改革」推進のための取組 　部活動の朝練習廃止、練習時間の短縮（平日は年間を通じて１６時４５分終了・１６時５５分完全下校）、育児・介護等をしておられる教職員全員が退勤時刻で退校できる条件整備を行い、定着してきた。 　週２日の職員健康日を告知し、生徒指導や行事等の取組繁忙時以外は意識して取り組んでもらえるようにお願いし声掛けを行なっている。休日は基本的にセット解除をしないことを告知し、部活動時に必要なカギ（保健室＜ＡＥＤ・緊急時使用する PHS 常備＞および中校舎の扉など）を準備して、休日は部活動指導のみとお願いしている。
	分析を踏まえた取組の改善 　電話対応終了時刻を１８時３０分、セット時刻を１９時に設定して、優先順序を考え、計画的に仕事に取り組んでいただくように呼びかけている。以前に比べライフワークバランスを意識して仕事の見直しを図る教職員が増えてきているが、更なる意識改革が必要である。 　総合育成支援員、ＳＣ、学校司書、ＡＬＴ、部活動の外部コーチに加え、校務支援員・部活動支援員等の協力を得ることで、教職員の負担軽減につながっている。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 　学校現場でも「働き方改革」について積極的に進めていく必要があることに理解を示していただいている。

（６）いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標 安心安全な学校づくりを目指し、いじめの未然防止及び早期発見、いじめに対する迅速かつ適切な対応のための取組を組織的に行う。
具体的な取組 　「学校いじめの防止等基本方針」に同じ
（取組結果を検証する）各種指標 ①学校のいじめ対策委員会のメンバーを児童生徒に紹介している。 ②保護者や学校運営協議会等に、学校いじめ防止基本方針や学校の取組を説明・周知している。 ③教職員の自己評価 　「ひとりひとりの生徒を徹底的に大切にし、楽しい学校生活を送れるようにしている。」 　「認め合い、励まし合い、支え合うことができるような働きかけをしている。」 　「学校いじめ防止等基本方針の内容を理解して、組織的対応に努めている。」等 ④生徒の自己評価 　「学校生活は楽しく過ごせているか。」「自分には良いところがあると思いますか。」 　「いじめはどんな理由があってもいけないことと思いますか。」 　「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」等 ⑤保護者への学校評価アンケート 　「学校や学級は「安心・安全」に過ごせるところになっていますか。」 　「他者を大切し、仲良く過ごせていると思いますか。」

「悩みや困りごとに対して、学校で気軽に相談できると思われますか。」等

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

①教職員の自己評価

「ひとりひとりの生徒を大切にし、楽しい学校生活を送れるよう指導している。」

「生徒たちが、互いに認め合い、励まし合い、支え合うことができるよう指導している。」

「学校いじめ防止等基本方針の内容を理解して、組織的対応に努めている。」等

② 生徒アンケート

「学校生活は楽しく過ごしている。」

「困ったことや悩んでいることを、先生や友達に相談している。」

③保護者アンケート

「お子さんにとって、学校は「安心・安全」に過ごせる場所だと思われますか。」

「お子さんは、周りの人を大切にし、仲良く過ごせていると思われますか。」

「お子さんは、悩みや困りごとに対して、学校で相談できていると思われますか。」等

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

①「未然防止」「早期発見・事案対処」「学校基本方針に基づく各種取組」などの役割を明確化し、自らの存在及び活動内容が生徒及び保護者に認識してもらえる取組を進め、全校にいじめ対策組織の教職員が説明する等を行った。いじめに関する情報は学年会や補導部会、生徒指導対策委員会、いじめ・不登校対策委員会等に迅速に報告し、組織的に情報を共有して対応策を協議している。同時に、教職員が、いじめに係る情報を抱え込むことは、法律の規定に違反することも確認している。

②学校いじめ防止基本方針については、年度当初保護者に周知するとともに、学校ホームページに掲載している。学校の取り組みについては、学級・学年だよりや学校ホームページ等を通して、積極的に発信し、説明・紹介・周知を行っている。職員会議では、毎回、学年や各クラスの状況を報告するとともに、いじめに係る情報共有をし、組織的な指導体制で取り組んでいる。

③教職員自己評価（「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計）後期（１２月）

ひとりひとりの生徒を大切にし、楽しい学校生活を送れるよう指導している。	100%
生徒たちが、互いに認め合い、励まし合い、支え合うことができるよう指導している。	100%
学校いじめ防止等基本方針の内容を理解して、組織的対応に努めている。	100%

④生徒アンケート（「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計）後期（１２月）

学校生活は楽しく過ごせている。	93.2%
困ったことや悩んでいることを、先生や友達に相談している。	70.6%

⑤保護者アンケート（「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計）後期（１２月）

お子さんにとって、学校は「安心・安全」に過ごせる場所だと思われますか。	91.9%
お子さんは、周りの人を大切にし、仲良く過ごせていると思われますか。	94.9%
お子さんは、悩みや困りごとに対して、学校で相談できていると思われますか。	55.3%

いじめの早期発見のためには、日常の生徒が発信するサインやちょっとした変化を見逃さないことを教職員で共通理解している。いじめのアンケートや教育相談等を実施し、生徒の悩みや不安の解消に努め、定期的にいじめ・不登校対策委員会を実施している。養護教諭やスクールカウ

	ンセラーにも参加していただき、多角的に情報を共有している。 　いじめアンケートやＱ－Ｕ調査、クラスマネジメントシート、教育相談などを有効に活用し、生徒の変化にいち早く気づくことを心掛けている。そのうえで、それらの生徒の声に対してすぐに反応し、動きだすことが大切であると考えている。教職員全員が、生徒ひとりひとりにとって、学校が安心安全な場であるようにしたいと願っている。生徒のアンケートでは、「学校生活は楽しく過ごせている。」の問いに９１．９％が肯定的な回答であった。概ね肯定的ととらえることはできるが、学校としては全員が安心・安全であると感じることができる学校を常に目指していく必要がある。保護者アンケートでは、「お子さんが、悩みや困りごとに対して、学校で相談できていると思われますか。」の問いに対して、肯定的な回答が７０．６％であった。数値としては低く、生徒や保護者が相談しやすい雰囲気や環境を整えることが必要不可欠である。さらに、相談を待つ姿勢ではなく、生徒や保護者の困りに気づく姿勢が求められている。小さな声をしっかりと聴き逃さず、心のこもった指導をしていかなければならない。保護者の方々や地域の方々の学校への信頼・期待度は高く、全校指導体制で取り組んでいく必要がある。
	分析を踏まえた取組の改善 　まず学級担任や教科担任が、生徒をよく見ること。一人ひとりが発信するサインや変化を見逃さないためには、見ようとして見なければならない。そのうえで複数の関わりを作りながら、丁寧な支援に努めていく。短期間のうちに解消したいじめ事案についても、学校が組織（学年会・いじめ対策委員会）として把握し（いじめの認知）解決に向けた取り組みを継続して行う。様々な場面で、いじめの問題や人への思いやりについて考え、議論する活動等を推進していく。 　いじめが起こった場合には、被害者生徒に寄り添い、「絶対守る」「必ず解決する」という学校の姿勢を示し、その生徒のことを最優先に考えていく。また、丁寧な聴き取りをするとともにクラス内・学年だけではなく、定期的に行っているいじめ・不登校対策委員会で共有するとともに、市教委（生徒指導課・学校指導課）や関係機関（児童相談所等）への正確かつ速やかな連絡・連携、対応の協議に努めていく。さらに、クラスマネジメントシートや Q-U調査等の分析を通して、学級集団の把握と個々への対応策の検討・実践をしていく。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 　コロナ禍等もあった中、できる限りの教育活動を行っていただき、ありがたいとのご意見をいただいている。クラスに何十人も生徒がいる中、なかなか一人一人に関わることは難しいと思うが、地域の子どもたちのために、教職員の方々の力を尽くして積極的に関わりを持っていただきたいとのご要望をいただいた。